

論壇

コロナ禍で大気汚染軽減

新型コロナウイルスの影響で生産や流通などのさまざまな経済活動が停滞している。興味深いことに、この経済活動の停滞によって、空気などの汚染が大幅に軽減した。北京でも青空が見えるようになったと報道されていた。そういえば東京のわが家からも従来よりも富士山がよく見える気がする。IEA（国際エネルギー機関）によると、今年の世界経済の二酸化炭素排出量は前年度比で8%削減するようだ。経済活動が停滞しているからだ。これもコロナ危機

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

の思わぬ副産物ということだろう。ただ、UNEP（国連環境計画）の推計によると、2050年の時点で産業革命前よりも気温上昇が2度以内に抑えるためには、2020年から年平均で毎年7・6%ずつ排出量を削減していく必要がある。2度を超えるような状態になれば、地球環境は大変なことになる。

気候変動対応への手法

とになる。そうならないためには、いま私たちが経験しているような経済的な停滞をこれから30年も続けないといけないことになる。これは厳しい。地球気候変動に対応するために、経済活動を縮小して温暖化力を減らすという手法では十分で

はないのだ。省エネや節電をして頑張るという手法だけでは地球気候変動の問題を解決するのは不可能である。もっと私たちの社会のあり方を抜本的に変えていく必要がある。

化石燃料を利用した発電を縮小していき、最終的には全て再生可能エネルギーに代替する。自動車

のような乗り物でもガソリンの利便性をやめて、電気自動車などの利用を拡大する。要するに、生産から消費まで、私たちの生活から炭素燃料の利用を抜いていくことだ。もちろん、それは簡単なことではない。ある程度時間をかけて進めていくことが必要となる。

社会のあり方を大きく変えていくためには、それなりの対応が必要となる。皆で努力をして炭素燃料の利用を減らしていくというよりも、炭素燃料を利用すると「損をする」という社会的な仕組みに変えていくことだ。例えば、炭素税をかけるというのはその一つの手法だ。もしガソリンや石油製品などに高い税金が課されれば、誰もガソリン車に乗りたくないだろう。電力発電も再生エネルギーを利用せざるをえないだろう。これをあまり急激にやろうとすれば混乱が起きるが、じわじわと税率を上げていけばよい。

企業も環境取り組み強化

最近の動きで興味深いのは、企業に投資する年金資金や投資ファ

ンドなどが、その企業の環境への取り組みをチェックし始めたということだ。環境問題への取り組みに熱心な企業に投資資金を回すという動きをしている。こうした動きを受けて、企業の方でも環境への取り組みに熱心であることを積極的に発信している。発信だけでなく、実際に生産活動などで炭素の取り組みを強化している。

こうした流れをグリーン資本主義と呼ぶ人もいる。投資など資金の流れを利用してグリーン革命を実現しようというのだ。欧州などではこうした動きはすでに顕著だが、日本でもそうした流れが広がっている。皆さんの預金や投資信託もグリーンであるのか、ぜひ関心を持ってほしい。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。